

特集

# 耕心館 ボランティア & 町議会

耕心館の庭（山野草）の手入れやつるし雛の作成、展示などを行っている耕心館ボランティアの皆さまにお集まりいただきお話を伺いました。

作っている者が大変な思いをしなければ  
見る人に感動は与えられない



Q 耕心館ボランティアは、いつ発足したんですか？

― 耕心館の開館当初、庭の花植え（チューリップと水仙）ボランティアとして参加。その後どんどん人がいなくなり、2人だけになって。自然豊かな庭を復活させようと、友達2人に声をかけて4人で始めた。

Q ボランティアをやるうと思っただけは何か？

― 耕心館に大勢の人が訪れてほしいと思ったから。本当です!!  
― 少しでも町の役に立ちたいと思ったから。  
― つるし雛を見に来たとき、声をかけられて、物を作ることが好きで、つるし雛を作りたいと思った。

― 秋、落ち葉のお掃除は大変だろうと思ったので。

― つるし雛を見て、すごく感動したから。  
― つるし雛の講座に参加したことがきっかけ。手作業も庭の手入れも好きだったし。  
― つるし雛作りに参加したくて。その時は、庭のお手入れもあるとは思わなかった。(笑)

Q 庭の手入れや植物を育てるのは大変では？

― 耕心館がスタートした当時、元々あった山野草がはがされ、大切に育てられていた樹木もほとんど伐採されて、ただの赤土しかなかった。耕心館に似合った以前の庭に戻したかったので、もう夢中だった。  
― 花が大好き。

つたので、第1回は和紙で作った。

― つるし飾りで有名な伊豆稲取に4人で行って、一人1種類、合計で4種類の作り方を教わった。そして、帰ってきてからお互い違う種類を教え合って・・・楽しい試行錯誤でした。

Q 毎年大勢の方がつるし飾り展に来られています。成功の秘訣は？

― 毎年、瑞穂にちなんだ題材を考える。  
― 型紙から全部手作り。題材の写真から型紙をおこす。何時間もかけて、試作品を何種類も作って、完成形を決める。一つひとつ丁寧に、心を込めて作っている。  
― やっぱ続ける事。

Q つるし雛を作るうえで大変だなと思うことは？

― 縫うのはとても難しい。縫い幅は2ミリで1ミリの折り返し縫い。  
― 気に入った生地を探すのも大変。どこに行っても、つい生地を探してしまふ。  
― そうそう、金沢のつるし雛展では、みんないなくなったと思ったら、生地探しに夢中でした。  
― せっかくなのでつるし雛の時は、綿入れの時ほど縫うためのひもは、実はとても縮みやずい。水につけて、一晩引っぱり続けたり。結構、苦労します。  
― 一つひとつ作り上げるのは本当に大変。けれど、作っている者が大変な思いをしなければ、見る人に感動は与えられない。  
― 大きいものだと出来上がるまでに1年かかります。

Q つるし飾りを続けてきて、良かったことや印象に残っていることは？

― 見に来られた方が満面の笑顔で帰られた時。大作ができたとき。  
― まだ始めたばかりです。やっこの思いで最初の作品が出来上がったことがすごく嬉しい。飾られるのが楽しみです。  
― 毎年、千支の作品を作ることが楽しみです。  
― 「15万円で売ってください」と言われた時はビックリ!!・・・お断りしました。(笑)

Q ボランティア活動をしていてよかったと思う時は？

― 仲間に出会えたことが一番!  
― なんでも語り合える。文句も言える。(笑)

Q 今後、どんな瑞穂町になってほしいですか？

― 住みやすいまち。  
― 交通の便がもっと良くなってほしい。  
― 緑が多いので、いつまでも残してほしい。人にやさしいまち。

Q 議会だより「ギカイのひろば」に一言。

― カラーになって見やすくなった。  
― お金をかけずにいいものを作ってください。あまり見たことなかった。これから、ちゃんと見ます。

Q 最後に一言。

― 今、カワセミを作っています。複雑で細かくて大変ですが素敵なものができると思っています。是非、皆さん、見に来てください!  
― ご参加いただいた皆様  
― ご協力ありがとうございました。



【後列左から】大崎礼子さん、千葉英子さん、加園キヨ子さん、栗原美津子さん、宮崎理紗子さん  
【前列左から】奥泉智子さん、門司昭美さん、本田絹代さん、吉野琴子さん、岩田敏江さん